

湯河原町教育長 高橋 正 様

文化芸術拠点施設のあり方にかかる意見について

近年、我が国では全国的な少子化や高齢化社会の急激な進展により、将来人口の減少や地域経済の衰退が危惧される中で、国による地方創生の取組をうけた各地域の特色を生かした活性化対策が重要視されております。

本町においては、温暖で恵まれた自然環境を求めて県外から転入されるシニア層も多く、さまざまな分野の文化・社会活動への参加意欲の高い方々が増加し、活動の機会を求める声が聞こえています。

また近隣市町では二宮町の生涯学習センター「ラディアン」や小田原市の市民交流センター「UMECO」と生涯学習センター「けやき」など、住民の文化芸術やボランティア活動の発表や展示、交流の拠点施設が設置され、生涯学習の場として、また多くの人が交流する場として地域活性化にも大きな役割を果たしています。

現在、本町の住民活動の拠点施設としては、町立図書館をはじめ吉浜文化福祉会館などの地域会館、観光会館、町立美術館などがあります。

特に町文化祭や各団体の展示発表に際し主に利用される町立図書館は、駅前であり良好な立地条件ではありますが施設の老朽化、駐車場不足に加え、展示に際しては重いパネルボードを利用者が設置するなど設備が不十分であり、また地域会館などにおいても同様の状況です。

このような中で、現在建設中の防災コミュニティセンターは主に災害時の支援拠点としての機能に集約されており、老朽化している観光会館についてもリニューアルの計画などはない現状において、検討が行われている地域会館のあり方などを勘案しつつ社会教育委員会議にて調査検討を行いました結果につきまして、次のとおり意見を述べさせていただきます。

【意見】

今後の地域会館の見直しなど公共施設の計画にあたり、統合や建て替えを計画される際には、地域住民の要望を踏まえつつ、駅周辺や中央地内など住民の利便性の高い場所に、文化芸術の展示、発表や各団体の交流を行うための拠点となり、町民の生涯学習の中心となる施設を設置することが重要と考えますので、ご配慮をお願いいたします。

湯河原町社会教育委員会議 議長 菊池 芳史